

会 議 記 録

次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成26年度第2回魅力ある屋島再生協議会
開催日時	平成26年10月30日(木) 14時00分～15時35分
開催場所	屋島山上 れいがん茶屋
議 題	(1) 平成26年度の取組及び27年度事業の方向性について (2) 今後の協議会運営の在り方について (3) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員等	佃委員（会長）、岩佐委員（副会長）、岡委員、佐々木委員、佐野委員、塩野谷委員、城下委員、高橋委員、古川委員、眞鍋委員、三井委員、宮武委員、森委員、代理出席者3名 稲田副部会長（にぎわい創出部会）、藤井部会長（文化財保存・活用部会）、新谷部会長（情報発信・施策調整部会）
傍 聴 者	0人
担当課及び連絡先	政策課 839-2135

審議経過及び審議結果

議事に先立ち、地元屋島山上観光協会会長の森委員から挨拶及び屋島の近況についての報告を受けた。

次の議題について協議し、下記の結果となった。

議事(1) 平成26年度の取組及び27年度事業の方向性について

屋島活性化基本構想に掲げる44の具体的施策・事業の取組状況について、事務局から報告した。

その後、平成26年度の取組及び27年度事業の方向性について、にぎわい創出部会、文化財保存・活用部会、情報発信・施策調整部会の各部会長等から、それぞれの部会の状況について報告した。

【主な質疑・意見等】

(委員)

新屋島水族館と屋島ドライブウェイについて、状況報告をお願いしたい。

屋島の入込客数は、50万から40万人になってきており、そのうち20万人がお遍路、20万人が水族館といわれている。

新聞では、三豊市に水族館を検討という話があり、一方、屋島ではビジターセンターの整備が動き出している。

これまで、水族館の議論があまりないが、ぜひ屋島山上で継続してほしいという意見が多い。ビジターセンター予定地と隣接しているので、同じ敷地で一緒になって、環境に配慮した水族館をつくってもいいのではないか。

また、市議会で、市長から屋島ドライブウェイ無料化検討との発言があった。山上の駐車場拡充とも関連するが、市民の皆さんは全て無料になると思っている。しかし、想像すると、ドライブウェイ入口のゲートはなくして、山上の駐車場では、時間制の駐車場を考えていると思う。状況を教えてほしい。

暴走族対策も必要であるし、ドライブウェイを整備した眞鍋氏の功績を称えるようなものも残した方がいいのではないか。

審議経過及び審議結果

(委員)

ドライブウェイについては、9月議会において、市長が無料化の方向での答弁を行った。

現在は、課題解決に向けての議論を行っている。暴走族対策や渋滞対策、また、真鍋氏の功績を称えることなどは、無料化の中で考える。できるだけ早く無料化をしたい。

水族館については、いろいろな動きが各地であり、情報収集に努めているが、他の自治体と民間企業との間のことなので、なかなか把握できない。集客力のあたる施設と認識しており、その機能は残してもらいたいと考えている。

市のビジターセンターについては、屋島活性化の軸に考えているが、今のところ、水族館と一体的に整備する議論はない。

(委員)

ビジターセンターは動いているのでよいが、水族館については、新しくして残したいのかどうか、市のスタンスが決まっていなと思う。早めにスタンスを決めた方がよい。

(部会委員)

ドライブウェイの無料化の議論は昔からあった。過去の議論がどこまで伝わっているか疑問である。無料化に反対ではないが、交通対策、不法投棄対策、生態系の保護が必要である。道路の市道化だけでは終わらない。

利用者の負担を軽減することが目的であれば、無料化以外にも方法はある。最近では、富士山や天空の城（竹田城跡）のように来訪者が一定の負担をすることが時流であり、屋島も同様であると思う。

(委員)

いろいろな問題はあると思うが、屋島山上への車が通れる道路は有料のドライブウェイしかないことを考慮してほしい。

(会長)

ドライブウェイについての意見については、市でも参考にしてほしい。

(部会委員)

屋島の観光について、これからの屋島の「売り」が見えてこない。今にぎわっている所は、行く目的・動機が明確であり、それに沿った広報・宣伝がなされている。イミテーションではない、屋島の「本物」を認識・共有しないとイケない。

通行料金の問題もあるが、屋島に上がらない理由のうち、ドライブウェイの問題は順位が低い。根本的に屋島を変える戦略が必要である。

(部会委員)

屋島の一番の「売り」は、自然公園である。自然公園としての管理が一番大切である。景色が美しく、自然が素晴らしいことが基本である。

園路が清掃され、木を伐採して展望がよく、トイレがきれいであることが必要である。今でも、世界中から屋島に来ている。自然の美しさが最大の武器である。

また、お客さまと接していると、例えば那須与一を説明するときに、銅像ひとつないのでは説明できない。源平の古戦場を説明するための銅像や看板、目印が必要である。

そのほか、夕夜景フェスタを10年続けているが、未だに園路に照明がない。夜の観光を大事にするなら照明は必須であり、ドライブウェイ無料化で山上に人が集まれば、山上の皆さんも店を閉めずに開けると思う。

(委員)

屋島に人を呼ぶには、景色などが第一で、皆さんの連携も必要である。山上に上がる魅力がなければ、誰も上がらない。

審議経過及び審議結果

「住んでよし、訪れてよし。」という言葉があり、まず、市民が屋島をよく思わないといけない。

今は、屋島に行く市民が少ないので、まずは市民の意識改革と、そのために売りになるもの、市民の方が屋島といえばこれだというものを磨き上げていくことが必要である。

(部会委員)

そのためには、催し物などを継続的に年間通じて行う方法が適切ではないか。

(委員)

イベントは、費用がかかる。費用対効果を考えないと、イベント目的で来る人は、イベントがないときは来なくなるので、後が続かない。

(委員(代理))

にぎわい創出部会での意見にもあったが、もっと現場の声を聞いてほしい。ガイドをしていると、お客さまから「血の池が赤くない」とよく言われる。きちんと整備をすれば、土質により赤く見えると思う。かわらけ投げにしても、樹木で霊巖の岩が見えない。そんな環境を1つからでも直すとよい。

(委員)

樹木の伐採は、山上観光協会に資金があるときには、関係機関の許可を得て、イベントに合わせて伐採していたが、去年から資金不足のため、できていない。

市民が屋島に無関心とは思わない。また、山上のポテンシャルがおちているとも思わない。活かし方が問題であり、屋島の良さをどう伝えるかが問題である。本質的にいいものだから、屋島は宝物であるというところからスタートしないとイケない。

(会長)

屋嶋城跡の状況については、どうなっているか。

(文化財課長補佐)

来年度末の一般公開を目指して整備している。駐車場からの距離もあるので、動線やPRなど、どういう形で見せていくか内部で検討中である。皆さんからも意見をいただきたい。

(観光交流課長)

観光面では、文化財としての価値をPRするとともに、観光資源として他の資源とともに磨きをかけ、屋島の売りの一つとしたい。

(会長)

屋嶋城跡は、周辺の伐採をきちんとすれば、高松港からも見える。早めに情報を出し、各関係機関とも連携して、重点的にPRしてほしい。

(委員)

県でも、屋島を老舗観光地と位置付けているが、屋島に限らず、地元の人々の足が向かない面がある。県外からも屋島が変わったと思えるシンボリックなものがあるべき。

また、ハード整備以外に、今の観光は体験を求められている。屋島で何を体験できるか。そして、おもてなしと情報発信。屋島が変わったと思われる取組が出来れば、全国に発信していきたい。屋嶋城跡は、新しいスポットとして、市内から見えるようなアイデアも必要である。

また、観光には女性の視点が大切であり、女性の視点から屋島を見つめなおすことも必要である

(会長)

各関係機関・団体が作成する観光パンフレット類がたくさんあるが、今後作成するものについては、全て屋嶋城跡を掲載してほしい。

(委員)

数年前から、具体的に屋島活性化に力を入れてもらっている。廃屋の撤去も無理だと思われていたが、撤去できており、あきらめずに、形に見えるもの一つずつやっつけていければよい。

審議経過及び審議結果

まず、屋島を市民から愛されるようにしたい。水族館も、できるのであればリニューアルして残してほしい。屋島ケーブルも、なくなってから声が上がった。これからも息長く活性化の取組を続けてもらいたい。

議事(2) 今後の協議会の運営の在り方について

今年度、協議会のより自主的な運営に資するため、研修会又はワークショップ等を検討中である旨事務局から報告した。

議事(3) その他

11月に開催予定の屋島に関するイベント等について、事務局から紹介した。

—以上で審議終了—